



新日鉄住金エンジニアリングの米国現地法人、新日鉄住金エンジニアリングUSA (NSEUSA)は、本社・カリフォルニア州サンマテオ、社長・前田泰史氏)は米国で座屈拘束ブレース (BRB)の製造・販売を手掛ける。現地を取材した。

(村上 倫)

# 「新日鉄住金エンジニアリングUSA」

訪れる。カリフォルニアでは1994年のノースリッジ地震で甚大な被害を受けた。新日鉄住金エンジニアリングUSAは、耐震への関心が高まった。新日鉄住金エンジニアリングUSAは、98年に米国で大学や構造設計事務所向けにBRBの設計事務所に競合が出現し、2003年ごろには3社競合

## 「座屈拘束ブレース」を拡販

### 米国でシェア3割目指す

の営業を開始した。99年には実プロジェクトへの適用へ向けカリフォルニア大学バークレー校で実験を実施。デービス校で初採用となり、以降米国でも座屈拘束ブレースが



前田社長



「ウィルシャーグランドタワー」内のホテルに設置された「アンボンドブレース」。意匠がそのまま生かされた

多数採用されるようにな状態に。05年には米国鋼化したが、競争が激化する。当時は日本から輸出構造協会 (AISC) が設計基準を制定し、設計競争などでローカルの競合が有利となり日本から手引書の発行などで基準の輸出に限界が見えてきた。そこで現地生産・現所も病院や大学施設などを中心に設計に織り込む。05年には『アンボン』の競合が出現し、2003年ごろには3社競合 よつになるなど一般工法

「ドブレース」の委託加工先で一般鋼構造物の製作などを手掛ける矢嶋 (本社・東京都国立市) の米国支社、矢嶋USAがネバダ州リノ市に設立された。11年にNSEUSAが設立された。日本では設計事務所などへの織り込み営業が中心。NSEUSAの

5900億ドルに達すると予測もある。ターゲットとする非住宅建設投資も21年には5千億ドルと一定の伸びが見込まれ、BRBも今年度3千万ドル (約33億円) 超の市場規模が想定される。需要は堅調で20年には最大で4300万ドル (約47億円) 程度まで拡大するとの試算もあるという。堅調な需要を確実に捕捉するため「よい製品を納期通り納めることが重要だ」と前田社長は強調する。

「工務や製造の効率化に取り組み、納期対応力や品質向上を図っていく」。17年は過去最高水準の生産量となったことから新日鉄住金エンジニアリングUSAに常駐させ「見える化」の推進など効率化を図り対応した。また、収益性の高い大軸力や長尺といった高難度案件に対しても「設計段階からの設計事務所への営業展開や設計業務支援などを行い受注拡大を図りたい」。すでに病院施設の大型案件で成果があり、18年のNSEUSAの米国におけるBRBのシェアは3割に拡大するもよう。「大型案件がなくてもシェア3〜4割を確保できるよう努めた。製作・品質管理担当の人材を現地採用するなど体制も整備していく」と前田社長。米国市場での存在感を一層高めている。



「ウィルシャーグランド」のオフィス部のブレースはブランド名が確認できた